

「土砂災害の対策と課題」

東京都 品川区立日野学園 7年 遠藤 瑠奈

日本全国で多発している土砂災害は、すさまじい破壊力を持ち、一瞬にして多くの命や住宅の財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。また、過去十年間の土砂災害発生件数は平均して一年間に約千件もの土砂災害が発生しています。その土砂災害はある一部で起こっているわけではなく、ほとんどの都道府県で発生しています。土砂災害による被害を防ぐため、国土交通省や都道府県では、砂防えん堤などの施設整備や警戒避難体制の整備などの対策を実施していますが、国土交通省や都道府県だけでなく、私たち一人一人が日頃から備え、対策していけば、もっと土砂災害の対策へと繋がると思います。私たちが身を守るために知っておくことは、三つあります。

一つ目は、自分が住んでいる地域が土砂災害危険箇所であるかどうか確認をとることです。土砂災害危険箇所とは、国土交通省の調査要領と点検要領により都道府県が実施した調査で判明した、土石流、地すべり、急傾斜地の崩壊が発生するおそれのある箇所のことを言います。土砂災害危険・箇所の地域の人は十分に注意するようにしますが、土砂災害危険箇所でなくても、付近にがけ地や小さな沢などがある場所は、注意する必要があります。だから、土砂災害危険箇所ではないからといって、安心してはいけないということです。

二つ目は、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意することです。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時に、市町村長が避難勧告などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。それは、ホームページなどでも確認できますが、テレビや携帯ラジオの気象情報でも発表されます。大雨で停電や電波障害などがおこることもありうるため、ラジオを持つのは良い対策だと思います。

三つ目は、土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難することです。強い雨や長雨の時などは、市町村の防災行政無線や広報車による呼びかけにも注意すること、障害を持った方や、お年寄りの方などがいる場合は、移動時間など先のことを考えながら早く避難するなどの対策が、今から必要だと思います。土砂災害の多くは、木造の一階で被災しています。避難が困難な時は、近くの建物の二階へ行くなどの対策があります。

このような対策方法が世間では知られていますが、私ができる対策方法は一番身近で出来る防災グッズを用意すること、テレビのニュースや天気予報をまめに見ることです。いつ災害が起こるか分からないので、今すぐ防災グッズの準備をしておこうと思いました。また、ニュースなどを見ることですぐに避難出来たり、対応が出来たりすると思ったからです。

土砂災害での被害は、このような対策も沢山ありますが、その分課題もあります。まず、真夜中の大雨は、外も暗く避難も難しいです。足元もよく見えず、通常の避難よりも時間がかかり、とても避難が困難だということです。

次に、安全な場所が全くない所があるということです。避難しようとしても近くに安全な場所がないのは、大きな課題だと私は思います。安全な場所が近くにあるのとないのでは、きっと被害者の人数も大きく変わってくると思います。

そして、なによりも正常化に対する偏見があったことです。自分だけは大丈夫と思っている人が多く、被害者も増えてしまっています。土砂災害にあった人達は、災害が起こるとは思っていなかったり、長年住んでいて災害はなかったから、安心していたりする人など、災害がいつ来るか考えていない人が最近多くなっています。

また、土砂災害の危険区域を知らずに安心していても多いのです。まさか、自分が被害に合うとは思わないということがよくあり、避難も遅くなってしまいます。

このように、対策方法が沢山ある分、課題も沢山あります。一人一人が対策に向けて行動していれば、被害者も減っていくと思います。

最近では、台風が何個もきて、土砂災害のニュースが沢山出ています。私は大雨や台風の後には必ず土砂災害のニュースがいくつも出るので、自然とニュースを気にするようになりました。そして、ニュースだけではなく天気もこまめに見るように心がけています。土砂災害対策のほとんどは、自分自身で出来ることだと思うので、これからも出来る限りの対策をしていきたいと思っています。私も最初は自分が住んでいる地域は、土砂災害など起こらないと思っていました。しかし、これからは土砂災害のことを少し頭に入れながら生活したいと思っています。そして、自分の身は自分で守り、命を大切にしていきたいと思っています。